

## 平成 29 年度 群馬県立女子大学卒業式・大学院学位授与式

### 学長告示

昨日の名残の雪も溶け、今朝の雨も上がり、春の息吹を感じながら、群馬県立女子大学の卒業式・学位記授与式を迎えることができました。学部卒業生 224 名、研究科修了生 13 名、合わせて 237 名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、この晴れの日を心待ちにしてこられたご家族や関係者の皆様方、心よりお祝いを申し上げます。あわせて、公務ご多用にもかかわらずご臨席賜りました群馬県知事、大沢正明様、群馬県議会議長、織田澤俊幸様をはじめ、ご来賓の方々に、群馬県立女子大学を代表して厚く御礼申し上げます。

本学は昭和 55 年 4 月に開学し、第 1 回目の卒業式を昭和 59 年 3 月に挙行しました。それから 34 年の間に 6521 名が卒業し、様々な分野で活躍をしています。本日の卒業式にも本学同窓会の紫桜会会長である野村留美子さまが出席してくださっています。卒業する皆さんも、これからはこの本学卒業生の一員となります。

今回の平成 29 年度卒業式・学位記授与式は本学にとり、大きな意味を持つものでございます。皆さまご存知の通り、来月から本学は群馬県立大学法人の下で群馬県立女子大学になります。法人化しましても、本学は公立大学であり続けますし、群馬県立大学法人の設立者も大澤知事でいらっしゃいますので、何かが大きく変わるという訳ではございません。ただ、大きな節目であることは確かです。法人化前の群馬県立女子大学としての卒業式・学位記授与式は今回が最後となります。

卒業、修了する皆さんが大学生活、大学院生活への夢と期待を抱いて入学してから、あっという間に時間が過ぎ去ったと感じているのではないでしょうか。この間、皆さんは、日々の学問の研鑽を通じ、多くの知識や論理的思考力、自律的に学ぶ力などを修得し、また尊敬する師である先生方、先輩、同輩、後輩たちと出会い、サークル活動などを通して、様々なことを乗り越えながら、大きく成長したと思っています。そして、かけがえのない生涯の友と言える友人たちにも出会い、多くの思い出も手にしたことでしょう。

卒業後は、皆さんは、AIなどが社会的基盤となる society 5.0 と言われる世界に踏み出します。この急速な科学技術の進歩による社会の変化を予見することはたいへん難しく、大学で学んだ知識や得た力のすべてが、社会に出てすぐに役に立つわけではないかもしれません。しかし、皆さんが様々な難題に取り組み、努力をしている時に、大学で培った知識や力は必ず活かされます。

急激に変化し、しかも女性の活躍が望まれる社会を前にして、多くの皆さんは不安に包まれているかもしれません。このような荒海への船出を前に、最も大切なことはなんでしょうか。私は、困難や失敗に直面した時でも「挫けない心、再び立ち上がる力」を持つことだと思っています。困難や失敗に直面した時は、誰もが一度は顔を下に向け、意気消沈します。しかし、そのまま顔を下に向け続けるのではなく、少しずつ顔を上げ、立ち上がり、そして前に進む力、すなわち「挫けない心、再び立ち上がる力、レジリエンスな力」が大切ではないでしょうか。

長い人生です。誰もが、大なり小なり困難なことに直面し、失敗や挫折を

経験します。でも、この失敗や挫折を糧にして前に進む力を身につければ、どのような社会が出現しようとする必要はありません。

このレジリエンスな力は生まれつきのものであるかとも思いますが、実は、誰もが身に付ける努力をすることができる力です。では、どうしたらよいのでしょうか。まずは、ささやかな挑戦を数多くしてみてください。その結果として小さな失敗を味わうことが多いはずですが、そこが大切です。失敗回避傾向が強い方も多いということをお聞きしますが、ささやかな挑戦と小さな失敗は人生に欠かすことができません。このささやかな挑戦を通して、困難や失敗を乗り越える経験を積み重ねていくうちに、自分自身の成長感覚を得ることができ、そして自尊感情が生まれ、自信が付いてきます。

周囲の方々、例えば、ご両親や兄弟、また大人の方々には、成功した話はしていただきますが、失敗した話はあまりしていただきません。そのため、自分以外の人々は余り失敗していないと思いがちですが、実は誰もが多くの失敗や挫折を味わっているはずですが、

振り返れば、私自身も数々の失敗や挫折を重ね、それを乗り越えるべく努力を重ねてきた気がいたします。今日、ご出席のご家族や関係者の皆様、ご自身が直面した困難や失敗談を今日の卒業生の皆さんにお話してください。それは、卒業生にとって、大事な宝物になるはずですが、

自分を、そして自分の人生を高めるべく挑戦する機会には、皆さんの周囲にたくさんあると思います。仕事上の挑戦もあるでしょうし、2020年東京オリンピック・パラリンピックでの、大会ボランティア活動などもあるでしょう。また、同じ2020年には群馬県にコンベンションセンターであるGメッ

セ群馬も完成し、国際会議なども開催されます。ここ群馬県内にもチャレンジな仕事がより一層増え、皆さんの活躍の場が広がるのです。小さなことでもよいので、思い切り挑戦する勇気、そして失敗しても立ち上がる力を身に付けてください。

群馬県立女子大学はいつでも皆さんの心の故郷です。辛い時、苦しい時には本学を、そして皆さんの恩師を、友達を思い出してください。大学時代に培った力を土台に、ひとりひとりが尊敬と信頼に耐えうる社会人に、そして社会をけん引する存在となれるよう成長していくことを、心より祈念し、学長告示といたします。

平成 30 年 3 月 22 日

群馬県立女子大学 学長 小林良江